

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 4/18. 4ピーク認識 4/12. 3初現の場合 → 4/29±の可能性

2008年07月より観測歴上、前兆が最長に継続するNo.1778前兆群についての続報現況報告です。

前情報では4/12から断続的に八ヶ岳のCH29に特異状態が出現していること、CH21の特異がやや顕著となっていることを報告致しました。

但し、4/21±の可能性と4/26±の可能性が考えられることも報告致しました。

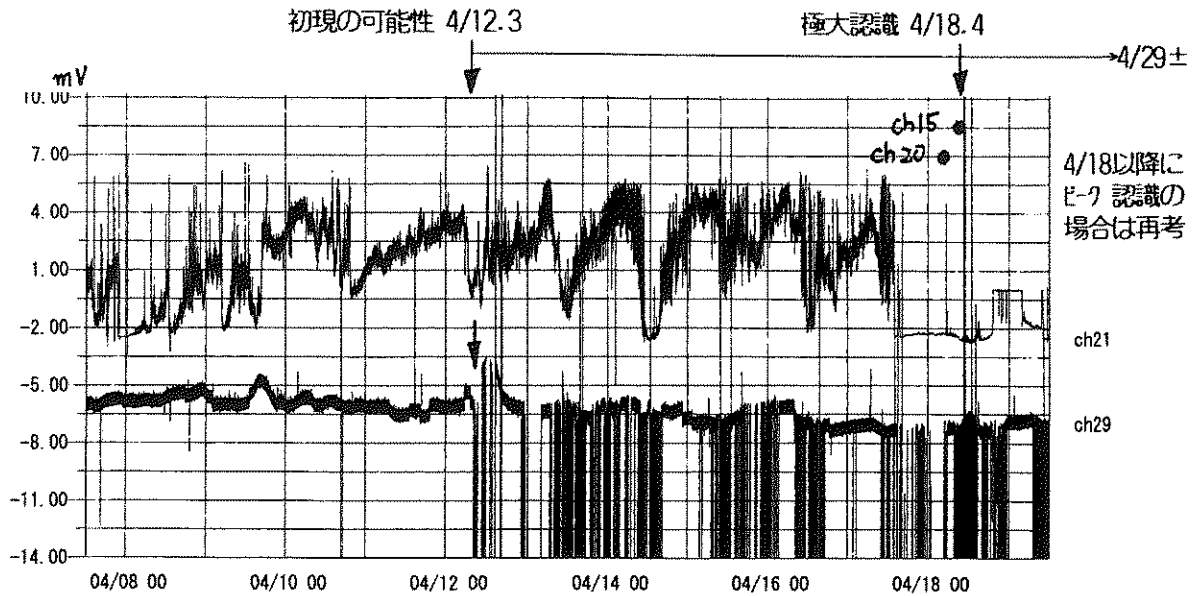
CH17は静穏正常基線の時間が長いですが、断続的に糸状特異も出現しております。

上図は、上基線=CH21 下基線=CH29 の4/8以降の実際の観測データです。左側縦軸電圧値はCH21に合わせてあります。CH21の正常値は約04mV±付近でほぼ直線基線を記録すれば正常です。上波形では不規則な変動が認められ、正常ではありません。特に4/17午後からは完全な糸状特異前兆が認められます。

下基線のCH29は4/11迄は、ほぼ正常基線ですが、4/12 08h頃より下向き短時間特異変動が出現しだしているのが判ります。4/16夕刻に一時特異状態の出現が止まったため、静穏化の可能性を考えましたが、上波形のとおり本日も継続出現しております。

上図の●印二つはCH15とCH20の特異状態出現を示します。

CH15は、この●印の4/18 9時頃のみ特異状態で、普段は正常基線。CH20もほぼ正常基線ですが、●印の4/18午前中に特異状態が観測されました。



CH21が完全糸状態となった4/18、CH15及びCH20にも短時間の特異状態が出現した4/18午前を鑑みますと、4/18午前にピーク認識ができます。CH29の下向き変動も顕著です。

仮にCH29の下向き変動が出現しだした4/12 8時頃を初現とし4/18.4を極大と認識した場合は、 $T_{\text{ap}}:T_{\text{map}}=20:13$ 経験則を使用しますと、4/29±が計算できます。

以上の様な現状を鑑みますと、4/21±の可能性は否定され、早い場合でも4/29±が考えられることを報告させて戴きます。

仮に4/29±に対応地震が発生する場合には、 T_{pp} (静穏期間)は約2.8日、従って、4/26午後には前兆の静穏化の可能性が計算されます。4/26~27に前兆静穏化が観測されるか、27日以降も継続するかは、今後を観測して続報で報告させて戴きます。

◆推定領域: 右図 点線領域内=大枠 太線領域内=可能性考え易い領域
(前兆の影響局誤認の場合は PHP新書にも記したとおり福島中心領域となりますが、右図領域の可能性の方が考え易い認識です)
(※ある程度、火山に近い領域の可能性有)

◆推定規模: M7.8±0.5

◆推定時期: 4/26~27に前兆終息が観測された場合は4月29日 or(30日)
(この場合の最大誤差=5月2日迄)
※4/28段階で前兆継続出現の場合は再考修正して続報で報告予定

◇推定地震種: 震源の深さ30km以浅の浅い日本列島の地殻陸域地震

◇推定発生時刻: 午前9時±1時間 (又は午後6時±3時間)

